

今村復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成28年8月4日(木) 10:35～10:45 於) 福島県庁)

1. 発言要旨

皆様、おはようございます。復興大臣の今村雅弘でございます。今日はこちらやって内堀知事のところに御挨拶に参りました。いろんなお話もさせていただきましたが、今後ともどうかよろしくお願いいたします。

2. 質疑応答

(問) 冒頭に、知事から3点を強く要望と言いますか、徹底してほしいとのことだったんですけれども、それも踏まえて、改めて復興大臣として、福島県に対する決意というか、特にどのようにしていきたいかという決意を聞かせていただけますでしょうか。

(答) 皆さん方もお聞きになったと思いますが、まず現場第一主義。2点目が、今、重要な局面にあると。そして、3つ目が未来への力強い前進、という3つを上げられたわけでありまして。いずれも、本当に私自身もそのとおりだというふうに思っておりますが、その中でも、私としては特にこの3点目の、未来へ向かっての前進ということに全力を注いでいきたいというふうに思っております。

(問) 復興大臣は、復興対策本部長大臣を含めると、今回、今村大臣で6人目だと思うんですけれども、県内からも交代が相次ぐということで復興が停滞するのではないかなというような声も上がっているんですけれども、そういった県民なり、地域被災者の不安にどういうふうに対応していきたいのかなということをお聞かせください。

(答) 県民の方がそういった懸念を持たれるのは、ある意味では私も理解ができます。しかし、私も復興特別委員会の委員長もやっております。いろんな意味で、出身は九州ですが、災害も多いということで、そういった皆様方の気持ちというものは、私としては人一倍持っているつもりでございますので、皆様方の期待に沿うように全力を尽くして頑張っていくということでお応えをしていきたいと、こういうふうに思っております。

(問) 3点目の未来への前進、希望を特に重点的に取り組まれるということだったんですけれども、具体的に福島に対してどういうことができるというふうにお考えですかというのが1点目です。あと、もう一点目は、報道機関が出た後に知事とどんなお話をされたのかという、2点について教えてください。

(答) いろんな課題がありますけれども、さっき言った未来へ向かって前進、1つ目はやはり福島の良さと言いますか、あるいは東北の良さと言いますか、そういったものをもっともっと掘り下げてアピール

していく。そして、それを形にしていく。具体的には、例えば農林水産業等、何といたっても一次産業がベースになると思いますから、その復興に向けてしっかりやっていきたいというふうに思っております。

あわせて、やはり生業の再生ということとも関連しますが、やはり働く場所をどう作っていくか、それには新しい産業、そういったものをいろんな形でこちらに持ってきて、そして、そこに雇用の中を作るということ、その2点を中心にやっていきたい。関連しますが、観光業、これも非常に大きな産業になってきておりますから、関連するかもしれませんが、そういったところにもしっかり力を入れていきたいというふうに思っております。

知事とのお話ですが、これは、こういうふうに名刺を貰いましたけれども、名刺をもう一つ貰いまして、それで、「今貰いましたよ」と言ったら、「いや裏を見てください」と言っていて、見たらこれです。裏は桃の香りがしまして、それで、是非この応援をしてくれという話で、たまたまこれをJRのキオスク等でも売っていますから買っていただくと言うから、「もうそれは是非頂きます」ということです。そういう中で、私も国鉄、JRの出身でありますから、JR東日本ともしっかりタイアップをして、とにかく福島、そして東北の復興に頑張らせますという話をしたり、それから、若干プライベートな話になりますが、知事さんが自治省で駆け出しのときには、佐賀県で見習いのようなことをやったということで、それで今、そのときの思い出で、私も佐賀で「鍋島」という酒が今、売り出されてチャンピオンになったりしていますが、そういう中で、福島というのはもともと酒の産地だと、もっと佐賀に負けないように頑張らんといかんとか、そういう話で、とにかくいろんな生業（なりわい）を起こそうよと、もっとアピールしようよという、そういう話で盛り上がりました。

（問）先ほどの知事とのお話の中で、東京オリンピックの関係の話も出たと思いますが、その中で大臣はオリンピック関係もお願いをしたいというふうなお話をおっしゃっていたそうなのですが、具体的にどのような形で働きかけを行いたいとお考えでしょうか。

（答）幸い、今日、5種目追加になるということにもなりましたので、是非それをしっかり捉えて、福島にいろんなチャンスを持ってこようということで、働き掛けをしたいと思っております。そしてまた、東京都知事も替わりましたけれども、是非都知事に私も挨拶に行つて、とにかく東北、福島のために力を貸してくださいということをお願いに行こうというふうに思っております。

（問）震災後、福島にはどのくらい、どんな場所に来られて、どんな印象を持っていますか。

（答）委員長としても来ましたが、今年の初めかな、原発エリアを中心に浜通りを中心に見て参りました。

（問）どんなところが印象に残っていますか。

（答）やはり大変だなという思いでいっぱいです。やっぱり人がいないということのつらさといいますか、寂寥感といいますか、それはやっぱり同じ被災地でも岩手、宮城とまた違うなということで、やっぱり福島については本当にいろんな角度から力を注いでいかなきゃいけないなということをつくづく感じております。

（問）今回、復興大臣というポストを最初にお聞きしたときは、まずどんなお気持ちだったのでしょうか。

（答）私はこれも天命かなというふうに思いました。私も国鉄時代、あるいは政治の場でもいろんな厳しい目に遭ってきたりしましたけれども、その都度、これはやっぱり自分に課せられた天命だという思いで戦ってきたし、しのいできたつもりであります。ですから、今回も本当に大変だと思いますが、それだけに全身全霊を尽くして頑張る舞台を与えられたんだという思いで頑張っていきたいというふうに思っています。

（問）知事から、現場主義というお言葉がありましたが、大臣の中で、月に何回とか週に何回とか、どれぐらいのペースで福島、東北に入りたいというお考えを、もしございましたら教えてください。

（答）まだそういう具体的な数字までは言えませんが、とにかく機会があれば、あるいは機会をつくって、特にもう初めのうちはできるだけ頻繁に顔を出していきたいというふうに思っております。

（以　　上）